

## 幾何学概論 B 演習

担当：見村 万佐人（みむら まさと）

### この演習に関して（2012/10/4）

#### [ 講義ウェブサイト ]

<http://www.math.tohoku.ac.jp/~mimura/geomb12-j.html>

黒板発表用問題でまだ解かれていないものリストなどを載せます。（演習問題自体はウェブサイトには載せません。演習に欠席した場合は友達に見せてもらうか、次回の演習のときに取りに来るか、オフィス（後述）まで来てください。）

#### [ 成績について ]

##### 単位修得のための必要条件:

黒板発表の時間を設けます。全回を通して少なくとも一回、黒板発表を完了することが単位修得の必要条件です。この条件を満たしていない者は不可（0点）になります。全演習が終わった後で上記条件を満たしていない者に対するの救済措置は、一切行ないません。

##### 成績のつけ方：

成績は、「講義の試験の成績」に「演習の平常点」・「黒板での発表点」を加味して付けます。ただし、上に書いた通り、黒板発表回数が0回だと成績は0点になります。

- 毎回の演習では通常、提出用問題を配り、その場で解いてもらいます。解答用紙は後で回収し、「演習の平常点」はそれによって付けます。下に書くように、遅刻に関するペナルティがあります。
- また、毎回の演習では黒板による発表も行ないません。「黒板での発表点」はこの発表状況によって付けます。

#### [ 演習の進め方 ]

演習は通常、以下の形式で行なってもらいます。

（前半）提出用問題をその場で解く。解説をきき、自己採点をする。（100分程度）

↔（後半）黒板発表用問題を希望者が黒板で発表する。（60分程度）

- 前半の解答用紙は回収します。TAが各人の自己採点をチェックし、次回返却します。上に書いた通り、これが「演習の平常点」となります。自己採点の結果がこのチェックと大きく食い違っている場合、その演習回の内容を“わかったつもり”になっている可能性があるので要注意です。

（注意）提出用問題の演習開始から30分を超えて遅れてきた者は、解答用紙の記入・提出はできません。

- 後半の黒板発表は、今まで配られた問題のうちまだ発表されていない問題が対象となります。一つの問題で複数の発表希望者がいた場合は、これまでの黒板発表回数の少ない人に優先権があります。#がついている問題は他の問題と比べて発展的で、その分発表の評価が上がります。力のある人は、なるべく難しい問題にチャレンジして発表しましょう。

発表の際議論のギャップが見つかるなど何らかの問題が生じた場合、発表者は発表の希望を撤回するか、次回に発表を延期するかのどちらかを選ぶことになります。発表が問題なく終わった場合、発表を完了したことになります。

黒板発表では、自分が問題を正しく解けていることが教員に判るように、かつ聴いている人に理解してもらえるように、発表準備をして下さい。前者は必要な議論をごまかしたり「明らか」を多用したりしないことや議論にギャップを残した状態で発表に臨まないこと、後者はなるべく聴衆の方を向いて話すこと、大きな声で話すことや黒板に文字を大きく濃く読みやすく書くこと・黒板に数式だけでなく日本語の説明も書くことなどです。特に、仮定を黒板に書くときには「～と仮定する。」などと書き、これまでの議論から出てきた結果の式と区別ができるようにすることを心がけましょう。（示す目標を書くときも同様です。）何かを定義するときには、何も言わずに新しい記号を使うようなことは避け、「～と定義する（:=を使ってもよい）」などと書きましょう。また、「全ての～で～」や「～となる～が存在」なども、 $\forall$ や $\exists$ も利用するなどして黒板に明記しましょう。

#### [ オフィス・オフィスアワー ]

合同 A 棟 1110 室・月曜日の 13:30～14:40（見村が出張中などで不在の場合は事前にお知らせします。）